

「RD問題 滋賀県と周辺自治会の皆さんとの話し合い」の概要

日 時：平成25年 1月31日（木） 19：00～20：30

場 所：栗東市コミュニティセンター治田東

出席者：（滋賀県） 北村部長、藤本管理監、中村課長、岡治室長、井口参事、
伊藤主幹、松村副主幹、平井副主幹、白井主任技師

※コンサル3名

※請負業者（一次対策）2名

（栗東市） 武村部長、井上課長、太田係長、梅田主事

（連絡会） 赤坂、小野、上向、北尾団地、中浮気団地、日吉が丘、栗東ニューハイツの各自治会から計24名

（マスコミ） 1社

（出席者数 43名）

司会：皆さん、こんばんは。それでは定刻となりましたので、ただいまからRD事案に関する周辺自治会の皆様との話し合いを始めさせていただきますと思います。

それでは話し合いのはじめに当たりまして、琵琶湖環境部長の北村から御挨拶を申し上げます。

部長（滋賀県）：皆さん、こんばんは。本日もお寒い中、話し合いに御参加いただきましてありがとうございます。

1月31日ですが、平成25年第1回目ということでございます。昨年は、いろいろと住民の皆さん方に御理解、御協力を賜りまして本当にありがとうございました。おかげさまで、一次対策工事も順調に進んでおります。二次対策工事のほうも環境省と協議を進めておりまして、そちらのほうも今順調に進んでいるところでございます。引き続き、住民の皆さんのいろいろな御疑問や御要望に、きちっとお応えしながら進めてまいりたいと考えておりますので、本年もどうぞよろしく願いいたします。

去る1月19日には現場見学会を実施いたしました。参加者10名の方、御参加いただきました。お寒い中ありがとうございました。

C区画、D区画につきましては掘削が完了、埋戻しにつきまして御了解をいただいたところでございます。また、C区画のほうで木くずがありましたので、そちらのほうを追加で、掘削除去をすることといたしましたところでございます。これで当初予定の掘削につきましては完了いたしました。ドラム缶については79個、これまで搬出したところでございます。

あと来年度の予算につきましては、今、約4億円、来年度の当初予算として要求をしております、知事まで無事に了解を得ているところでございます。県議会のほうも、恐らく順調にいくのではないかとというふうに考えております。環境省のほうの同意をいただきました後に入札手続を行いまして、金額が大きな案件でございますので、議会の議決を得てから、二次対策工事については着手をしていきたいと考えております。

本日の議題でございますが、本日は清水建設さんから現在の進捗状況につきまして御説明いただきまして、県のほうからは一次対策工事の今後の進め方ということで、残っております1,4-ジオキサンの掘削と、あと二次調査ボーリングにつきまして御説明をさせていただきたいと思っております。

本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

司会：始めにお断りをさせていただきます。いつもどおりですが、県、市とRD問題にかかわる周辺自治会の皆様方との話し合いなので、傍聴の皆様方からの御発言は受けないこと。会場の使用時間の関係で、時間を21時30分までとさせていただきます。以上2点について、よろしくお願ひいたします。

また本日、このコミュニティセンターにおきまして太鼓の練習がありまして、音のすることがあるんですけども、御了承いただきますようお願いいたします。

本日、資料を御用意しております。御確認ください。

まず、A4、片面刷り白黒1枚の次第でございます。それと資料としまして、「1,4-ジオキサンの掘削と二次調査ボーリングについて」というA3の片面カラー刷り、横長のものを1枚御用意しております。ございますでしょうか。

議第に先立ちまして、ちょっとお知らせがあります。

明日の2月1日から、滋賀県のホームページがリニューアルされます。これに伴って滋賀県のホームページ、全てアドレスが変更されます。この話し合いの資料等を掲載している当室、最終処分場特別対策室のアドレスも同様に変更されます。

変更点でございますけども、これまでは「<http://www.pref.shiga.jp>」であったんですけども、この「shiga と jp」の間に「lg」とドットが追加されまして、もう1回言いますと、「<http://www.pref.shiga.lg.jp>」というふうに変わります。「お気に入り」の登録やリンクを張っておられる場合につきましては、申し訳ありませんが、アドレスの修正のほうをお願いいたします。詳細は、旧のアドレスでも新しいアドレスでも、県のホームページのほうでお知らせしております。また、受付のほうに若干数ではございますが、お知らせの文書を用意しましたので、必要な方はお帰りの際、お取りいただきますようお願いいたします。

それでは、次第により話し合いを進めさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

最初の議題、一次対策工事の進捗状況について、清水建設株式会社の方から御説明をお願いいたします。

申し訳ありませんが、各自治会の皆様方は見やすい位置の空いている席に、適宜移動のほうをお願いいたします。

工事業者：清水建設の〇〇が説明いたします。

前回、12月5日までの進捗状況を説明させていただきましたので、今日は6日から1月30日までの進捗の説明をさせていただきます。

これは全景を三つ並べたものですが、一番上のものが11月15日に掘削を開始しています、その翌日の状態の全景写真のパノラマ。この下が12月14日、前回の話

し合いの1週間後ぐらいの状態、このときにはCとDが掘削完了、Aが掘削中、Bが未着手の状態です。1月28日の状態で、A・B・Dが全て完了、Cが埋め戻し中の状態です。ちょっと全体のパノラマでは、それぞれが見にくいと思いますので、それぞれの区画に分けて説明いたします。

A区画ですけれども、掘削期間が11月19日から1月17日までかかりました。この中でドラム缶が70本出ました。それと医療系の廃棄物が多数出ました。それと、この下の写真の左上のほうに割といい土がありまして、分析しましたら埋戻しに使えるということで、そこら辺の土を何百立米か再利用しました。そのほかは仮置きヤードに移動ということでございます。下の写真が、これは1月23日時点で掘削が完了している全景写真でございます。

A区画ですけれども、掘っている中で出てきたものを写真でご覧いただきます。

右上に図面と黄色い矢印がありますけれども、この矢印のあたりで写真を撮りましたよということでございます。このあたりの場所で医療系が多数出ました。三つとも同じぐらいの場所でびんのようなものとか医療系のものが、地上から2メートルぐらいのところ分布して発見されました。

これも同じようなところですよ。ちょっと血の付いているびんのようなもの、あとは医療系の乾いた、中に何も入っていないびんが多数見つけられました。

ちょっと、これは場所が違います。右上のほうにいけますけれども、ネットとか、ここら辺ではドラム缶が多数出てきております。

違う場所ですけれどもA区画の左のほう、車の一部が発見されました。そのほかに黒い、びしゃびしゃの液体に浸ったドラム缶が数十個発見されております。

右下の写真ですけれども、専用のバキュームカーで適切に産廃処理を行っております。次に、B区画にいけます。

B区画ですけれども、12月17日から1月28日までかかりました。この中では潰れたドラム缶が9本出ました。B区画でメインだったのは医療系の廃棄物、これが非常に大量に出ました。

下の写真ですけれどもシートがかかっているあたり、この部分は医療系廃棄物が予定深度よりも深い場所に続いていましたので、なくなるまで掘り下げましたので、予定よりもマイナス2メートル、GLの元々の地盤からマイナス7メートルのところまで掘り下げてなくなりましたので、掘削を完了しております。

これが医療系の写真、ちょっとわかりにくいかもしれませんが、掘っているところがほとんど医療系のびんばかりです。先に進んでよろしいでしょうか。

次、C区画にまいります。

C区画においては、結果的に特管物とか、そういうドラム缶とかはありませんでしたので、全量を場内に仮置きしております。掘削期間は11月15日から30日までの2週間、掘削完了確認としまして、1月19日に掘削現場の見学会で見ていただいたんですけれども、東南部にまだ木くずが混入していると、なくなるまで掘り進むべきだろうということで、1月26日に御指摘のあったところをやり直しております。それが次の写真ですけれども、東南部を大きく大型の重機、バックホーで掘り進んでいます。右上のほう、これで複数人で木くずがないことを確認、これより掘っても木くずがないこと

を確認して、下の左右の2枚の写真、木くずがないことを確認しました。その2枚、次のページで、またアップでお見せします。

木くずの混入範囲は撤去完了をいたしまして、1月28日に埋戻しを開始しております。これは木くずが取れた後のアップの写真です。きれいに取れていると思います。よろしいでしょうか。

D区画ですけれども、これが1月15日当初から掘り進めていまして、D区画に関しては10メートル×10メートル、深さ3メートルに関して全量場外搬出しております。

12月19日に、D区画の掘削完了確認の分析を皆様の御立会のもといたしました。土壌分析の結果、環境基準を超えるものは検出されませんでしたので、今後、埋戻し予定でございます。実際に明日、埋戻しを開始する予定であります。下が、そのときの分析のときの写真です。

以上でございます。

主幹（滋賀県）：すみません、県のほうからちょっと。

この掘削作業につきまして、埋立てされている廃棄物から排出者のきっかけがわかるものはないか、そういうのを確認しながら作業を進めてきております。

今までの状況を申しますと医療系のびんとか、そういうものにラベルとかついていましたので、その辺を調べて、メーカーとか製造年とか使用期限とか、そういうものの情報は見つけることはできたんですけども、直接、排出者がわかるものというのはありませんでした。

あと先ほどパワーポイントの中に、車の一部が映っておりましたけども、車体番号とかで何らかわかるかなと思ひまして車を調べましたけども、車の後ろの部分でありまして、車体番号とかは何も確認できませんでした。

以上、報告させていただきます。

司会：それでは御質問等ございましたら、よろしくお願ひいたします。

住民：説明の中で水が出てきたというのがありましたね、ドラム缶があつて、それでバキュームカーで水をくみ上げた。何を言いたいかと言うと、この右下にあつた、バキュームカーで吸った後、残った土はどこまで掘り進んだんですか。

工事業者：こういう黒い浸潤土がなくなるまで掘り進んで、実際に黒いのがなくなる状態までやれたんで、それで完了としております。

住民：わかりました。

住民：すみません。その黒い液体というのは、一体どういうものなんですか。

住民：分析をしたのか、液体の分析。

課長（滋賀県）：目で確認いたしましたけど水です。水の上に、少し油が浮いている状態ですので、いわゆる水より軽い油が水の表面に浮いている状態でした。全てが水です。そして多少油が浮いている程度ということでございました。

住民：車のことなんですけども、後ろって、これ1台分じゃないんですか。どういう車だったんでしょうか。

工事業者：エンジン部分がない、前側がない状態でした。

室長（滋賀県）：シャフトがありまして、両端にタイヤが二つ付いてます。二つというか、シャフトの両端にタイヤがついて、それのつながったもので、エンジンとかはないですね。今言いましたように後輪部分の車半分、軽自動車なのかなと思うんですけど、ちょっとそれもよくわかりませんが、後ろの部分が切断されたような感じかなと。

住民：そういうものは、どうやって持ってくるんですかね。

室長：ちょっとその辺はよくわかりません。どんなものかわからないですね、1台分じゃないですね。

住民：後輪が二つと、デフがありますよね、デフから先はもうほとんどない。

主幹：確認はできない。

住民：タイヤのサイズからあれですか、一般の乗用車というか一般の車ですか。

住民：後輪の径をいうと、145か何かそこら辺だったら軽だよ。普通車だったら、もっと大きいよね。

住民：浸出水は分析はされてないのですか。

課長：現場で検知管で簡易確認しております。

住民：検知管だけですよね。その水そのものは調べてないでしょう。

課長：水そのものについては調べておりません。

住民：何で調べないの。

課長：ですから問題となるのは、その油の状況でございますので、油の中に例えばVOCsとか、

住民：いや、油の中にあるとかないとかじゃなくて、浸透水でも出ているわけですよ、有害物質がいっぱいね。それなのに何でその浸透水も調べないの。

課長：ですから、その水については先ほどお話ございましたように、油かどうかを確認した上で、***かどうか確認した上で、全てバキュームでどけたわけですよ、どけさせていただいたということです。

住民：だけど、そこでどういうものが発見されるかいう、どれだけの濃度であるかということが大事じゃないの、それより下にその水がないという保障はないでしょう。

課長：確認させていただきましても、少なくともその時点で水はそこだけであった、その下にはなかったということです。

住民：水っていうのは、上から下へおりるものですよ。それはいつまでもそないところへじっとしておらへん。

課長：この水については、いろいろ皆さん御存じのように宙水、そこにたまっているたまり水であるというふうに考えています。ですから、それをのければ、その下にはなかったということです。

住民：いやいや、調べてないだけでしょ。それより下は掘ってないから見てないわけでしょう。どけてなくなった、それだけでしょ。

課長：先ほど申し上げましたように、当然、その水の部分についてはバキュームで吸い上げたわけですよ、その下の湿っている部分についても除去しておりますので、その下も乾いた状態のところまでいっているということです。

住民：乾いた状態なんてあるのかな、ちょっと理解できない。

住民：車なんですけどね、半分見つかったらっていうのはどうも納得できない。もう半分は、どこかにあるんじゃないですか、その可能性はないですかね。半分持ってきて捨てるというのは、どう考えてもおかしいんで、埋めるときに半分になってしまっ、もう半分はどこかに埋まっているのかなって素朴に思うんですけども。

住民：ちょっと不思議に思うのは、デフがあるというのは後輪駆動ですよ。大体普通、今、軽トラなんかでもFFと違うのかな、後輪駆動かな、軽トラは。

住民：軽トラは、後輪。

住民：後輪ですか。

住民：四駆以外は、二駆だったら後輪。

住民：ということは軽トラの可能性が強いね。もしも今の駆動輪だったら、フロントドライブだったらエンジン部分があるはずだよね、そこに。

住民：タイヤのサイズとホイールから見て、あれ一般の車ですか。ホイールに比べてタイヤが非常に大きいように見えるんですけど、錯覚ですかね。

住民：それまだ処分してないよね、あるんだよね。

住民：それまだ上に置いてあるんですか、それ。

住民：処分場にある。見ようと思ったら見せてくれると思う。

住民：仮置きだよ、それ置いてあるの。見ようと思えば見に行けるんですね。

室長：今現実**して、それが表にないので、今行って見られる状況にはないです。ただ、処分場内には処分せずにありますので、ちょっと上に土が載っていますけど、そんな状況で処分はしていません。

住民：潰して埋めたというんだからね。

司会：他に御質問ございませんでしょうか。もしなければ、次の議題に移らさせていただきますと思います。

2番目の議題で、一次対策の今後の進め方についての説明をいたします。よろしくお願いたします。

主幹：それでは、今、清水建設さんのほうから、一次対策の進捗状況を説明させていただきましたので、これからあと一次対策、残り2カ月ほどあるんですけども、それについて御説明させていただきたいと思います。

お手元のほうにA3のカラーの資料がございますので、これに従って説明をしていきたいと思います。

この資料の左側のところに四角で、「今後の進め方」というふうに書いてありますけども、ここに今、AからDまでの4区画で作業しておりますけども、その区画ごとの今後の流れを簡単に示しております。順番にAのほうから説明させていただきたいと思います。

A区画につきましては先ほど説明ありましたけども、掘削のほうが終わりまして、1月23日にEM探査を実施しております。EM探査の結果は、まだ出ておりませんので、

その結果がわかれば、わかり次第またこういう話し合いの場のほうで御説明させていただきたいと思っております。

次、資料のほう、2月2日の現場確認で、二次調査ボーリングというふうに書いてありますけども、二次調査ボーリングのほうが先に進んでおります。二次調査ボーリングにつきましても、昨年の平成23年12月13日の二次調査の話し合いのときに、一次対策の掘削と重なる部分については、掘削後にボーリングをすれば、その分だけ無駄が省けるんじゃないかという、そういう御意見を受けまして、その部分につきましてもボーリングをしておりませんでした。

具体的には、その図面のほうを見ていただきたいんですけども、A区画のところに濃い赤で「○」が打っております、5カ所。この部分が調査のまだ行われてない部分ですね。その隣のB区画のところに赤い「○」がありますけども、ここ部分ですね、合計6本がまだ残っておりますので、掘削が終わりましたので、その調査にほうに入っております。予定のほうが早くいきまして、28日からボーリングの測量に入って、29日からボーリングを始めておりまして、A区画につきましても、今日、全て終了しております。B区画につきましても、明日から作業に入るというような予定に変わりました。

A区画のボーリングなんですけども、この部分は一次調査のときにふっ素が深度9から12メートル、今は掘削して5メートルほど下がっておりますけども、掘削前の状態で9メートルから12メートルのところを基準を超えておりました。ここを以前の話合いのときに、12メートルまで出ていたら、その下3メートルさらに掘るということで、この部分は15メートル掘削することになりますけども、一次対策で5メートルを掘ってしまったということで、残り10メートルについてボーリングをやっていきます。これが5カ所ですね。

ボーリングの調査については、今終わっています二次調査とやり方は一緒で、例えば9メートルから12メートルまでの3メートルで基準を超えていますので、その上の6メートルから9メートル、さらに12メートルから15メートルの9メートルを混合試料で分析して、3分の一の基準を超えたやつについては、それぞれ3メートルごと分析すると。そして二次対策で除去する部分を決めていくと、こういうふうな流れになっております。

B区画のところですけども、こちらの部分については、ダイオキシンが基準を超えております。また、B区画のところ、そこについては説明をさせていただきます。

あと、そこに2月2日の現場確認と書いておりますけども、工事情報とかでも御案内させていただいておりますけど、2月2日に現場見学会を予定しておりまして、その日にA区画とB区画の掘削面の確認をお願いしたいというふうに考えております。

それが終わりましたらキャッピングシート、これは通気性遮水シート、空気、ガスは通しますけど水を通さない、このシートを敷設しまして、A区画の工事は完了となります。この部分の埋め戻しにつきましては、二次対策のほうで対応していく予定です。

次に、B区画ですけども、こちらのほうも掘削が30日までに終わりをまして、1月30日にEM探査を実施しております。まだこれもやったばかりで、結果が出ておりませんので、またわかり次第、御説明させていただきたいと思っております。

B区画につきましても、ここは当初5メートル掘削予定でございましたけども、先ほ

ど清水建設のパワーポイントにもありましたけども、医療系がまだ見えておりましたので、医療系を掘削するために、さらにその下まで掘って、一部7メートル近くまで掘りまして医療系を全て取り出しております。医療系をちょっと深くまで掘っていきましたので、その後、キャッピングシートとか、ボーリングとかあるんですけども、ちょうど深く掘った位置とボーリングの位置が重なってしまっていたので、今、お手元の資料にはボーリング長、4メートル、1カ所と書いてありますけども、多分2.5メートルぐらいになるのではないかと思います。

ここのB区画ですけども、今ちょっと深く掘った部分につきまして、今のその深い穴の状態でのシートの敷設というのは難しいので、シートが張れるようにちょっと埋戻しをしてキャッピングシートを張りまして、B区画のほうは完了と。ここの埋戻しにつきましても、二次対策で実施するという予定です。

次、C区画ですけども、C区画のほうは1月19日の現場見学会で説明させていただきましたけども、EM探査の結果というの、磁化率が高いところもなかったんですけども、現場を見ていただいたときに木くずがあったということで、これを1月26日に除去しております。

今現在の現場の状況としては、ここを既に埋戻しております。埋戻し材につきましてはA区画のところ、ちょうど掘削するときに表面にありました、廃棄物が混入してない山土がありましたので、それを埋め戻し材として使用できるかどうかの分析をしまして、問題がありませんでしたのでそれを入れております。ここはそれで全部埋戻して、一次対策は終わりということになります。

次に、D区画ですけども、こちら12月に現場見学会を行って、そのときに簡易溶出試験を行って、基準を超えるかどうかという試験をやったんですけども、不検出でしたので埋戻しを行うということですが、後からちょっと御説明しますけども、隣接して1,4-ジオキサンの問題がありますので、ここの部分については、その1,4-ジオキサンの掘削を終わり次第、埋戻しをしたいというふうに思っております。

あと残っています工事ですけども、その平面図にちょっと濃いピンクで着色しておりますけども、東側焼却炉の跡の部分ですね、ここにコンクリートの擁壁とかコンクリートの床版、コンクリートの床部分と、あとピットといましてコンクリートの大きな水槽みたいなのがありますので、それを壊していくというふうになります。

今の状況としましては、まだ擁壁の取り壊しは行っておりません。擁壁の背面の土をちょっと今掘削している状況です。今の土を除けずに擁壁だけ壊すと、その土が壊れたりしますので、擁壁の背面の土を今ちょっと掘削している状況です。

ここのコンクリートを撤去しました後は、EM探査を実施します。EM探査を実施して、シートをここも張っていきます。EM探査の結果につきましては、二次対策のほうで対応していくということになります。

今日の話し合いの中心になりますけど、1,4-ジオキサンの掘削ですけど、資料の真ん中、D区画で掘削したその隣、ちょっと濃い赤で着色しておりますけど、n4番と、その横のn1番ですね、ここで1,4-ジオキサンが基準を超えて検出されております。

1,4-ジオキサンにつきましては土壤環境基準がありませんので、地下水環境基準を適用しているという状況で、ここのn4番のところですけども、地表面から2.1メー

トルのところ0.12ミリグラム／リットル、基準が0.05ミリグラム／リットルで0.12ミリグラム／リットル出ております。

それをどうするかということですが、以前の話し合いのときにも説明させていただいておりますけども、ここの深度2.1メートルで基準を超えて出ておりますので、それから1メートル下、3.1メートルのところ、ここは一応基準内におさまっておりますので、その資料の右のほうに「D区画埋戻し・1,4-ジオキサン掘削イメージ」というふうに書いておりますけども、地表面から1.1メートル、ここはVOCsの関係で1メートル毎に分析しております。1.1メートルのところにつきましては、ここは0.005ミリグラム／リットル、1,4-ジオキサンが出てきていますけども一応基準は超えてない。2.1メートルで、先ほど言いました0.12ミリグラム／リットル、3.1メートルのところで0.016出てきています。ここの部分につきましては3.1メートルまで、この一次対策の中で掘削して処分すると。ただ、処分につきましては、一次対策では掘削して仮置き、こちらの基準を超えている部分につきましては、二次対策で処分をするというふうに考えております。

あと、ここのD区画のところですが、今の作業現場の状況を見ますと、ちょうどここの部分が作業通路に当たっておりまして、D区画を大きな口を開けた状態にしますと、ちょっと作業に支障が出てきますので、今掘っている部分を埋戻して、この1,4-ジオキサンの部分を掘削すると。掘削した後、ここのD区画の全部を埋戻すというふうにしたいと考えています。

また、n1のところ、ここは深度5.8メートルで、基準0.05ミリグラム／リットルのところ0.057ミリグラム／リットル出てきています。ただ、ちょっと深いところにありますので、この一次対策で対応するのはちょっと難しいので、ここの部分につきましては二次対策で掘削して、基準を超えた部分については処分するというふうに考えております。

以上が、1,4-ジオキサンの県のほうの対応の考え方を説明させていただきました。それにつきましては、ちょっと後でまた御意見をいただきたいと思っております。

この一次対策でA・B・Cを掘りまして、現場のほうに仮置きをしている土がございまして、そこの仮置きの土につきましては銀色のシートで、一次対策終了時にはシートで覆うと。来年から実施予定の二次対策で、水処理施設とか選別施設をつくっていきますので、選別施設が完成したら順次、それを選別していくというような今後の流れになっています。

以上でございます。

司会：それでは質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。

住民：ちょっと説明がわかりにくくて、十分にそしゃくできてないんですけども、ジオキサンはn1のところは、もう掘削除去されたんですね。

主幹：n1のところはまだです。

住民：n 4。

主幹：n 4はまだです。

住民：掘削除去と書かれていますが。

主幹：n 4はこれからです。今の状態は、D区画のところが口を開けたような状態です。それと隣接したn 4のところをやっ払いこうと思うんです。

住民：これはいつやられるわけですか、工事が何か通路にひっかかるって。

主幹：ここ（n 4）はちょうど建屋の前ぐらいになって、今はそこに鉄板を敷いて通路になっています。そこに大きな口を開けると、車の通るスペースがなくなってしまうので、まずは今、D区画の口が開いているところを一部埋めて、それからですね。

住民：それから、ここを掘削されるわけですね。それで、この場所で塩ビモノマーも出たんですね。

室長：今もう取ってしまったところですよ。

住民：だから3メートルぐらいまでの深さのところに出ていましたね。それはもう掘り出して、同時に取ってしまったということですか。

参事（滋賀県）：D区画と一緒に取って。

住民：ああ、もうそれで一緒に取れているということですか。

その下は、もうないということでしょうけれども、例えばその部分の浸透水のデータで塩ビモノマーが出ています。だから上にあったものが、ずっと浸透水で下まで行っているんじゃないかということで、その下に絶対ないというように、どういうふうに判断されるのか、ちょっとその辺を聞きたいです。

上に塩ビモノマーがあつて、それは取ったと。その下には、もう恐らくないということで掘らないんでしょう。ところが、そのずっと下の浸透水のほうで塩ビモノマーが出ていますね。だからその間も塩ビモノマーがあるんじゃないのかなという気がしたんですけど。

室長：埋めたところの分析では出てないので。

住民：だけど浸透水は出ているでしょう、浸透水。それはどこから出てきたのか。その辺の位置の浸透水から出ているんでしょう。どこか他から流れてきたんですか。

課長：ちょっと今、手元にデータがないので、ちょっと確認させていただきたいんですけども、恐らく塩ビモノマーですので、これは分解生成物ですよ。

住民：これは第8回でしたか、委員会資料でもきちっと報告されています。

課長：23年9月の時点で、確かにクー5の下のところでは塩ビモノマーが出ていますので、その後の状況についてももう一度、取った後の浸透水の状況については、また御報告させていただきたいと思います。

住民：いずれにしても浸透水にも出ているということですから、3メートル部分まで取ったからもうないというのは、ちょっともう少し慎重に見ていただかなきゃいけないのと違うかな、そういうことです。

課長：ですから除去した後の浸透水の濃度について、またデータが出ましたら御報告させていただきたいと思います。

住民：それと、このピットとかコンクリートの床版ですね、擁壁等々、これの下はEM探査だけですか。もうボーリングとか、それはやらない。

室長：ボーリングは、そこの床版があるのでしないということじゃなくて、他のところと同じルールでやっております、例えばクー3のnの、ちょっと数字を書いていませんけども灰色に塗りつぶしてあるn7ぐらいのところについては、ボーリングは他のところと同じルールで溶融炉の建屋も含めて、ここの東側焼却炉の床版のところも含めて、同じルールでボーリングはもう終わっています。床版の下はボーリングしないということではなくて、全て同じルールでボーリングをやっています。

住民：だけど、ここは同じルールでということなんですけれども、これと同じルールを適用できますか。これだけ中に埋められたコンクリートの構築物のある周辺ですよ。

室長：床版のところも表層ガス調査もして、そういうのを含めて30メートルメッシュで。

住民：コンクリートをのけた後ですよ、コンクリートをのけた後。コンクリートは、かなりの面積がこれあるでしょう。それをのけた後は、EM探査だけで本当にいいのかどうかということなんです。ボーリングをやっぴりするべきじゃないんでしょうか。十分これ、当然やらなきゃいけないんじゃないですか。

室長：床版があるなしにかかわらず、全部同じルールでボーリングはやっていますので。

住民：いや、コンクリートのとこを避けてやって、

室長：いや、避けてやってない。コンクリートに穴開けてボーリングをやっています。

住民：やっていますか。

室長：やっています。溶融炉の建屋のコンクリートのところも穴開けてボーリングもしていますし、それはもう何の例外もなく、やりますとしたところはやっています。

住民：そうですか、それはどうも。

EM探査は、主として金属の探査ですね。金属以外の有害物というのは、全然この場合は、もう何かドラム缶だけを対象にしているような感じがするんですけども、何かこれ、

室長：重金属なりVOCsなりも含めてずっとやってきたもので、この床版の下もやっておりますので、そこからは出てないということです。

住民：じゃあなぜEMをやるんですか。

室長：EM探査は例えばA・B・C・D、EM探査をこの辺一帯をして、A・B・C・Dを決めるのにEM探査をしたわけですけども、床版のところはEM探査は鉄筋が入っているので、やっても意味がないのでやってないということです。コンクリートの床版を取ったところを、このエリアでやってないところは、この床版の下やということなんで、そこができてないということなんで、そこは取ってからするという約束をさせてもらいましたので。

住民：一応これでボーリングも今までのルールでやっている。

室長：床版があるのでここは外すとかということなくずっとやったということです。あとはEM探査が、このエリアとしてはできてないということです。取ってからやる。

住民：ドラム缶がたくさん出ましたよね。そのドラム缶の内容物というのは、この調査はどうされるんですか。やられるんですか、やられないんですか。

室長：ドラム缶は、基本的に取ったらすぐに車に載せて、密封して焼却処理をしています。分析をしろという話かも知れませんが、それぞれについて分析をしているものではございません。ただ、においとかは確認しておりますけども、特に変なおいがするものではなく、前に16個か、試掘で出てきときのようなタール状のものなりが含まれます。先ほどの黒いと言うてた水にちょっと油が浮いていますけど、そこは液体が出てきたので検知管で確認はしましたけど、あとは液体がこぼれるようなものではなく、ということでしたので、掘削してすぐ車に載せて処分しているという状況です。

住民：クー3というのは、前から僕は言うてますけれども、PCBが一番高かったんですよ、高濃度であったわけです。9.2とかね。これは今までの数値と、もうはるかに比べものにならないほどの高濃度なんです。そしてダイオキシンも360というような数値でしたね。ということは灰だとかPCBのようなものが入っていたと、要はドラム缶に入っていたという可能性もあるわけですね。それから流れ出ているという可能性もあるわけです。それを何も確認せずにこうして、本当に除去はどれだけ進んだのかというたら、単に僕らはドラム缶を取ってほしいというよりは、中に何が入ってあって、どのように撤去されていくんかという、そこが大事やと思うんですよね。それでやったら、本当にこれPCBがなくなるのかなと思う。

室長：ドラム缶だけ探して取っているわけじゃなくて、ドラム缶の関連で周りの土も含めて非常にたくさんの、もう安全を見越してかなりのものを取っております、

住民：ただ、このPCBで見ますと、0メートルから9メートルの間でも9.2ですよ。それを9メートルからもっとはるかに下、16.35メートルでも2.6もあるんです。

室長：そういうことありましてね、

住民：ダイオキシンにしたってさ、その深さでも110もあるわけですよ。

室長：80個ぐらいのドラム缶でしたら重量的にしれたもんですけれども、うちはその周りなりも、土を含めまして200トン近く土砂を出しています。場所によっていろいろ違いますけども、それぞれ個別に綿密な分析をしてはおりませんけども、そのドラム缶なり、その下なり周りなりを含めてかなりの土を取って、それがもし影響があるものであれば取り切っているという状況でございます。

住民：いやいや、取り切っているというより16.35メートルのところに2.6とか110あるわけですよ。その深さが全然違うわけですよね。今取り除いている深さと、現実に出てる深さが全然違うわけでしょう。それで本当に大丈夫なんですかということなんですよ。

この数字を見たらすごいですよね、本当に。昔、6月のデータですけどね、ダイオキシンでも110なんてというところは、ほかほとんどないですよ。それで低いほうですよ、360あるんですからね、上のほうは。PCBでも最高ですから、一番高いですからね。

だから、こういうデータを見ながら、やっぱり対応すべきと違うのかなと。埋戻すことばかりよりも、これを少しでも軽減されるよう。

室長：今の一次対策は、EM探査で金属反応があったところを集中的にやって、ドラム缶なり、その周りにあったものを手厚く取ったという状況です。

言っではるダイオキシンについては、このボーリング調査で出ていますので、その対応の範囲を深さを定めて、二次対策でしっかり取るという対策は次に続いていくもの

ですので、今のドラム缶のあったところをずっと下まで掘るとかいう話では全然ない、そういうルールで今やっています。今はドラム缶が出てきたところの周りの土も含めて、非常にたくさんの土も含めて除去したと、これが一次対策です。

住民：それは理解できます。そやから、まだまだこういうもんがありますということです。

住民：医療系廃棄物の件でお尋ねします。相当の量が出たように思うんですけど、10トンダンプ何台ぐらい出されたんでしょう。

それと私の知っている限りAとBのそこから出ているんですが、いずれも重機でドラム缶やそういうのを探していて、そしてたまたま見つかった。特にAは前回見つけて、今回除去したということなんですね。Bはドラム缶を見つけにいて、ドラム缶が見つかったということは、もう医療系の廃棄物というのは、掘削でないと見つけることができないのかなという疑問が立ちます。

それともう一つ、これは相当の周辺ボーリングをやってますんですが、ボーリングコアの中に、そういうものが反応しなかったのかどうか。あれだけの大量なものがあったら、ボーリングコアにひっかかるべきやと思うんですけど、それがコアでは見つけられてなかったのか、それがちょっと心配です。

それと、そういうことから判断すると、もっとこの周辺に大量の医療系の廃棄物があるのではないかというのを疑います。ということは、掘削して見つけないと無理やないかという疑問が立ちます。その辺のところについて、ちょっとお聞きしたいんです。

室長：医療系の量ですけど、現在までに340トンぐらいを搬出してまして、これ処理能力に限界がありますので、処理能力分を出していますが、今まだ前処理ヤードに270トンぐらい残っていますので、足すと600トンぐらいになるかなということです。

住民：ダンプにしたら何台ぐらいあるんですか。

室長：11トンぐらいありますので。

住民：トンで、そのままいけるわけですね。

室長：トンですね。

住民：容量じゃなくて、

室長：はい、トンです。比重によりますけど、あふれていることはなく載っていますので、10トンから11トンぐらいを載せて。

住民：それがそのまま載せられると、それで計算する。

室長：ボーリングで医療系が出てないかということですけど、出ております。血液のついた部分が出たりしているのが、ボーリングのコアの中で確認できています。

住民：たまたま出たのではなくて、コアボーリングで確認できてたので、それは***の結果ということですね。そのボーリングのコアの医療系のあれは参考になったわけですね。その辺にあるということ特定して実際にできた。

室長：そうですね。

住民：2箇所で大量に出ていますけども、他にはあるという可能性はいかがでしょうか。大変心配になるんですが、掘削する必要はないのかなということ。これ今、感染性医療廃棄物として扱っているんですね。

室長：今、大量に出ているものは、今の例えばBエリアで出ているものというのは、あきびんですね。ただ、Aエリアで出てきた中には血液の、先ほど見ていただきましたけど、そういう採血の管がかたまって出てきたようなものがありましたので、念のために焼却していますということです。

住民：それは感染性の医療廃棄物として処分しているわけですね。

室長：そうです、熱処理しています。

住民：他にはどうでしょうか、心配ですけど。

住民：まだたくさんあるところはあったんですか。現在出たところと、ボーリングで見つかったことは一致するんですか。現在、今言っているようにボーリングで医療系が入っていたと。承知の上で掘ったというお話ですけども、それと、他のボーリングなんかであるのか一致するんですかね。他では、

室長：ボーリングであったところには、掘ったらあります。

住民：今までそれが、前のボーリングであったんですね。

室長：ありました。ボーリングであったところには掘ったらあります。

住民：そんな話ありましたっけ。私ら全然聞いてない。

室長：やっていますよ、ちゃんとやっていますよ。コアの中に血液が混じっていたということでAエリアは、それを含めて範囲を設定していると。

住民：他はなかったんですか、それ以外のところは。

室長：ないですね。

住民：要するにボーリングで見つからなかったところには、掘っても出てこないということですね。

室長：それは（ボーリングで）あったところには埋まっていますけども、当たってないからその隣には埋まってないかという、それは言えません。ほぼBエリアあたりで出てくるものを、B以外のものは、ちょっとなかなか見てもわからなかったということがあります。

住民：一番最初は筋掘りで出てきましたね、Cエリア部分でしたかね。あれはボーリングで発見できてなかったでしょう。だからそれはちょっとやっぱりボーリングでは、たまたま何か所か見つかったかもしれませんが、今までボーリングの調査結果で、医療系の廃棄物の話は全然出てこないじゃないですか。

室長：掘削した部分についてはびんなり、あるいは***に含まれてある医療系の点滴のバックとか、そういうものは埋戻せないで、掘った分について出てきたやつについては今すぐ処理しようと。

住民：今皆さんが言われているのは、他にもあるんじゃないですかということをおっしゃっている。

室長：ということですが、***と言うものではないのかなということはありません。

住民：えっ、何です。いや、あったけども、言うほどのことはないから言わなかった。

室長：いや、あったけどもって、あったやつは全部撤去しました。

住民：いやいや、ボーリングのコアの中にそういうものがあつたと。

室長：ボーリングのコアにあつたところは、Aエリアに含めて掘削しました。

住民：いやいや、あったけども、この話私知らなかったんですよ。

室長：いや、ちゃんと書いていますので。

住民：どの辺に書いていますの。

室長：今までの一次対策工のところに書いていましたね。

住民：血液が出たと書いてあった。

室長：書いていましたよ。それは書いています。別にそんな何もうそつく話じゃないです。

住民：いやいや、よう知らんもんやから。

住民：まあ、こんなもんじゃないですわ、まだまだいっぱいありますわ、見つからなくて。

室長：この機会ですけど、今の中で出てきましたけども、2月2日、今度の土曜日ですけども、AとBのまた掘削面を確認いただきたいと思っていますので、御都合がつく方は、また御参加いただきたいなということです。

A、Bエリアは、もう今回は埋めない部分ですので。EM探査を今やっております結果が出ましたらまた、そうばたばたと見てもらって埋めるというところではないので、また話し合いのときにEM探査の結果を出させてもらおうと思っています。

今の集約としましては、クー5のVOCsの濃いところを掘ったら、隣に1,4-ジオキサンが浅いところであって、ついでの機会を取ろうというお約束をさせていただきましたので、2.1メートルのところに出ていますので、万全を期して上下1メートル余裕をみて3.1メートルまで掘って、これはちょっと二次対策で処理したいので、しっかりと雨に濡れないようにして置いておきたいということでございます。ここにつきましては先ほどの関係もありまして、言っていましたように車両の通り道でございまして、掘ったら埋戻して、また作業の支障のないようにしたいなということでございます。

だから今のジオキサンのクー5のn4につきましては、掘削して取ってしまったら、もう今のクー5の真ん中のVOCsの高いところに引き続き、埋めたいということを思っておりますので御了解いただきたいと思えます。

司会：他に何かございませんでしょうか。もしなければちょっと早いですけども、これで本日の話し合いを終わらせていただきます。

議題で、その他というのがございますので、何かございませんでしょうか。

住民：すみません。ちょっと今の続きなんですけれども、ジオキサンの件ですけれども、2.1メートルのところのものは二次対策で処理をしていく。これだけ掘り出して、仮置きしておいて処理をする。それで後、埋戻すというお話ですね。その後のn1のところですね、5.8メートル。

室長：n1は二次対策で。ちょっと深いので。

住民：これは、二次対策で。これ埋戻すんでしょ。掘って埋戻して、また二次対策で、またそれを掘るわけですか。

室長：隣のn1は、また二次対策で。ちょっと工法的には上からオープンで掘るのか、そこだけ掘るのかまだ未定ですけども、ちょっとそれは今はできない。

ただ、n4についてはできるところから、なるべくあるんやったら先に掘っといたほうがいいかなということもあって、前にお約束させてもらいましたので、n4は今取りたいなど。

住民：わかりました。

住民：2点あるんですけども、1点目は要望で、先ほどから気になっているのは車が半分出てきたことで、半分はどこへ行ってしまったんだろうということが、どうも気になっています。恐らく一番怪しいのは焼却炉の床版の下、ここを取ったときに、同時期にもし埋戻したとするならば、ここの下にある可能性が高いかなと私は思うんだけど、その可能性は十分。多分、同時期にA区画のごみと一緒に埋められたということを考えて、A区画で出てきたものが、この床版の下にも、また出てくる可能性があるということで調査していただきたい、これが1点目です。

もう一つは、これは質問なんですけども、この一次対策でかなりいろんなものが出てきて、違法物が出てきたわけなんですけど、改めて元従業員の方に、こういう事実の確認をするということは可能でしょうかということなんですけども、ここでこういうものが出てきたんだけど、いつごろ、どこから持ってきたものだとか、おまえ本当にこれ知らないかとか、そういうふうに元従業員の方に改めて聞くというのは、いかがなものかと思うんですが、それについてはどうでしょうか。

室長：なかなか時間が経ってしまっていて、私もずっと今回の関係の、最近のこのヒアリングは全部私も参加して聞いておりますけども、なかなか記憶がきちとした記憶じゃない、特に場所あたりが。

今回この地図を見せて、当時の写真を見せて、ここかなというぐらいのことで、例えば車はどうかなというのが、なかなか正確なことが聞けるか、ちょっとわからないというところがあります。ただ、ドラム缶あたりは、この東側焼却炉の周りにあるんやということなので、今まさにその周りから出てきているということがありますが、個々具体の、ここはどうか、ここはどうかというのは、なかなかちょっと。

住民：いやいや、どこに埋めたというんじゃなくて、いつごろ、どこから持ってきたのかという、搬入先を知ることはどうだろうかと思うんだけど、車が出てきたんだけど、おまえ車どこから持ってきたか知っているかとか、医療廃棄物が、ここからこんなに出てきたんだけど、どうやって埋めてたんやというのを、改めて聞いてみる価値はあるかなと思うんだけど。

室長：ちょっと今の話、検討させてもらいます。前向きに検討させてもらって、情報は集めたいと思っております。

司会：他にございますでしょうか。

住民：今の医療系の廃棄物をどこから持ってきたのかという、その経緯を〇〇さんが聞かれましたけども、それを書類とか、いわゆる伝票で追うことはできないですか、そういうのは全く残ってないんですか。

室長：医療系が処分場に持ち込まれているのは書類上も確認できます。それはあの炉が、そういうのを燃やせる炉だったんです。だから処理を委託している医療機関というのは、あるのは確かなんです。そやけど、それは、燃やすものとして医療機関はRDに委託しているんです。

だから今、〇〇さんがおっしゃったように、それを燃やすものとして委託したものを、埋めた人がどうしたんやというところがあるのかなというところで、今のドラム缶にしても炉で燃やすとして持ち込んだんやろうと。だけどそれを燃やさずに埋めてあるというところがありまして。その委託した排出事業者が埋めてくれと言って頼んであるということは、今、私らも書類を調べましたけど。

例えば、燃やしてその灰を処理するということをしかりしようと思うと単に埋めるより高くつく。だから、排出事業者がもう燃やさないで埋めたらいいって言って安く処理を委託するようなことがなかったかという点で委託金額も比較していますが、そういう事実はなかなか出てきてないという状況がありますので非常に難しいところがある。書類的にはどこの排出事業者がRDに委託しているかというのはいっぱいあるんですけど、そういうような状況です。

住民：容量もつかめるでしょう、逆に。容量というのか、いわゆる重量で引き取ったものか、あるいは立米で引き取ったものかわかりませんがね。

室長：それはわかりますね。

住民：それから逆に換算すれば、今回掘削して大量に出てきましたよね。それで、ほぼ似たり寄つたりの形になっているかどうかというのがね、それでイコールにならなけりゃ、

室長：おっしゃったように、私らも言っているように、排出事業者は焼却をしてもらおうと思って委託していますが、そこできつと比べたら、実際に焼却している量よりも持ち込んだ量のほうが多いと。その差は何かと言ったら、埋めたとかいう話にきつとくる話なんですけど、どの分が埋められて、どの分が焼却されたのかというのは、なかなか難しい。それはもう従業員さんが、どうして、どうやって、いつごろどうしたんかという話を聞くしかないといえますか、委託した排出事業者さんの責任を問うというところは、なかなか難しいところがあります。

もう非常に世間の相場よりずっと安く受けてもらった、もう不適正に処分しているのがわかってながら出したということがあれば、またそれも一つ間接的ですけど、またそういうことになってくるかなと思うんですけど、そういうことはなく適正処理の価格で出しているのかなというところですので、非常にこの案件の難しいところはそういうところかなと。不法投棄であれば、もうここに不法投棄するということで受けてあったら、全部受けたのをそこに捨てているのがわかっていたらあれですけど、今の案件の難しいところはそういうところですよ。

住民：平成7年、8年、9年とか、あこら辺やね。搬入はされているけど、埋め立て処分はゼロになっている。そんなん完全におかしいです。実際にそういうデータがある。

住民：これは平成12年に調べた。そしたらこのRDが提示してくるやろ、各事業者から提示してくる。その量とRDが処分した量とがあわへん。だから我々は医療系がようけあるでということを書いて。それは恐らく埋め立てしときよるということで、ちゃんともう数字出したんや。それが、まさにこうして出てきたさかいに、平成12年にちゃんと調べたんです。

住民：監視したわけですよ、RDをね。

住民：きちんとそういうものがあつたさかいに。それでRDは医療系については、全部焼却するという許可もときよる、県から。それで何もかも燃やしますと、焼却しますということで医療系の一般廃棄物、それから感染性廃棄物も焼却するという許可をもらときよる。ほんでに混ぜて収集してくる。もうそれは焼却するんやったら、混ぜて収集ができるんですわ。本来は感染性と分けて収集せんならんやけれども、もう一緒くたで収集してくる。それは収集できるけれども、医療系の廃棄物は積み替えはできませんよと、これはもう法律で決まってるんですわ。

ところがあそこの処分場へ、あれ平成11年に行ったときに、ようけそういうもんが置いてあつたんです。これは何や言うたら、これは焼却しますということで、その置くということ自体がもうあかんのですよ。収集してきたら、そのまま焼却せんとかんのですわ、それがその場に置いてあつたと。それが後で考えみると全部埋め立てしてたと、こういうことなんです。

それでRDは、これ金額的に計算すると、大体4年ほどでものすごく裏金つくつとるはずや。本来、焼却せんならんものが焼却せんとかんのですよ、そのままほかしてる。お金もろて集めてきたやつを処分せんとかんのですよ、そのまま埋め立てしていきよるということで、それで、もうかなりの裏金を持つとると思う。それを一応計算してみると十何億で、16億5,000万円ほど、なんかそのぐらいになるんですよ。

住民：今回600トン出された***と、他にどれだけ残っている、数字でいうと。

住民：大体、当時計算したらかなりのもんでしたわ。それは感染性と言っても、いろんな

ガラスとかそういったものが、どんと出てきていますね。ガラスはガラスでまた計算してあるさかいいにあれですけども、収集のときに、いろいろ分けてしてきよるさかいいに。それで私が計算を出したのは搬入先、医療系の先やと、もう医療系ということがわかりますので、びんにしたって何にしたってわかりますから、そういうようなことに出したのも二通りで計算したやつがあるんですけども、かなりの***

住民：それが中に残っている可能性というのは、もう相当ある。

住民：今聞いてちょっとびっくりしたんやけども、僕の予想よりも多い。

住民：まだまだあるということですか、推定で。

住民：北尾側の25メートル、セットバックしたあれでもものすごくあったんやね、あの辺にも、まだまだいっぱいあります、すごい量です。ちょっと一つ質問してもいい、

住民：ちょっとすみません。それと医療系が出てきたということは、当然注射針も出てきているんですよね。それが一つと、今のそのドラム缶の問題で、5メートル掘削して大量に出てきたんですよね。それ以上の深さに対してあるかないかという疑問は、もう今のところあれですか、推測もできないんですか。

室長：ドラム缶は金属反応があったところあたりから、他の金属で反応したのもありましたけども出てきていまして、それは掘って埋めてあるんで、もう2.5メートルまで掘る前からドラム缶が出始めて、5メートル掘ったときには、そこに連なったドラム缶はなくなったというのが結果です。

今、除けたけどもまだ、その下にあるん違うかという話については、EM探査していますので、地表面から下で金属反応が出てきたのを掘っている。私らが思っていたのは、証言だと上からバックホウで掘って、そこにごろごろと埋めてあるんやという話なので、そういうことで5メートルということで見当をつけて、今、一次対策で5メートルまで掘っていますが、今のところ私らが思っていたように、上からずっとドラム缶が出てきたけど5メートル掘ったらそのつながったのがなくなっているという状況です。まだそれでも途切れたのかどうかわからんのでEM探査します。それでもし反応が出てきたら二次対策で、それは対応しようということになります。

住民：ドラム缶がたくさん出ましたけども、これプラスチックのポリのドラム缶とか、ポリ容器というのはなかったんですかね。清水建設さん、なかったですか、そういうのは。

室長：ペール缶が、1つか2つ。

住民：ペール缶って。

室長：20リットルの。

住民：20リットルの、グレーの。

室長：いや、白です。ペール缶は白っぽかったですね、あとは金属のドラム缶。

住民：ああ、そうですか。プラスチックはなかった、ポリはなかった。

いや、以前のときはものすごく200リットルのポリ容器、それから20リットルというよりは、もう一つ大きい、四角っぽいグレーの薬品のものですけど、そういうのが大量にあったんですよ。そういうのはなかったのかなど。

室長：それはなかったです。いわゆる医療系を入れるプラスチックのメディペールみたいな、そういうのはなかったです。

住民：いや、医療系じゃない、薬品系ですけどね。どっちないうと硫酸とか塩酸とか、ああいうのを入れるような容器、それがね、そうですか。

副主幹（滋賀県）：ちょっと医療系の件でお話させていただきたいんですけども、今回トータルで600トンぐらい出てきているんですけども、その中にはガラスびんばかりという容器が結構あるんです。

それにつきましては、当時、特別管理産業廃棄物の制度が平成3年にできまして、そこで感染性医療廃棄物というのが、定義がある程度明らかになったんですけども、それ以前にお医者さんが感染性がないということだったので点滴のびんだけを集めて埋められたという可能性があります。その場合ですと医療系廃棄物ではあるけれども、感染性廃棄物ということではなくて単なるガラス陶磁器くずとして埋められている可能性もあります。

ただ、今回それを掘ってみて、それが区別はできませんので、今回掘削したエリアにおいて、そういった医療系機関から出てきているようなびんとかにつきましては、全て医療系廃棄物として焼却処理させていただくという形で、処理させていただくということになっております。

ただ、多かったのはBのエリアの領域なんですけど、Aのエリアなんかですと、ちょっと先ほどから言っていますように、血液らしきものが残っているような試験管だとか、あるいは歯医者さんの歯型ですとか、あるいは薬品が入ったようなポリ袋というのが出てきたりとかしておりますので、それらもあわせて医療系廃棄物として処理はさせていただきます。すみません、追加です。

司会：その他、ございますでしょうか。

管理監（滋賀県）：あと1点だけ皆さんに。溶融炉の中にありましたコアですけども、二次対策をできるだけ速やかにしたい。真っ先に、あの建物を壊さなければならないので、

中にコアを相当数置いております。このコアについては今後また再分析とか、いろんな必要があるかもわかりませんので、このコアについては保存するんですけども、あの中に置いておくと建物が潰せませんので、本日、場所を全部移動させていただきましたので、今、溶融炉の中には、コアはもう全て引っ越しをさせていただいた。場所は木之本のほうまで持って行っております。

それは県の施設の中のただのところで、あれだけの量が置ける場所が木之本土木の旧の保健所跡しかなかったんで、ちょっとそこへ持っていきましたんで、もし溶融炉に入られた場合に、前あったコアはどこへ行ったという話になったらあきませんので、それはこういう形で全て移動して保管しておりますので、そういう形で、できるだけ早く工事に着手して対策がとれるように、今年できることは、今年やってしまおうという形で今やっておりますので、その点だけ御報告させていただきます。

以上でございます。

司会：他いかがでしょうか。

住民：解体はいつするの、解体。今解体するんじゃなくて、

管理監：二次対策で入札をしてやりますので、そのときに決まってから運び出していたらまた時間がかかるので、いわゆる今できることはやっとうやないかという形で、本日、引っ越しをさせていただいたということでございます。

住民：例えば641トン出すとか何かいろいろな話が出てきましたけども、よく理解できてないんで、一次対策工とかある程度の区切りがついたときに、今までのまとめをやっただけでいいかなど。

室長：まだ搬出中なので、まとまったらまた、その辺の数字はまた。

住民：そんなことを思っています。私ら全然理解できひんので、お願いします。

司会：それでは、ちょっと時間が余りましたが、本日の話し合いをこのあたりで終わらせていただきたいと思います。

本日はお忙しい中、御出席いただきまして本当にどうもありがとうございました。